

## 研究機関名：東北大学

受付番号：	2012-1-204
研究課題名	ヒト膵・胆道癌組織における Corticotropin-Releasing Hormone 関連ホルモンおよびレセプターの発現
研究期間	西暦 2012年9月（倫理委員会承認後）～ 2017年9月
対象材料	■病理材料（対象臓器名 膵臓・胆道） □生検材料（対象臓器名） □血液材料 □遊離細胞 □その他（） 上記材料の採取期間 西暦 1998年1月～ 2011年12月
意義、目的	<p>膵胆道癌は、診断の困難さおよび悪性度から極めて予後不良であり、治療成績向上が急務である。特に膵癌は21世紀に残された消化器癌といわれ、近年、増加傾向にあって、その診断法や治療成績の改善が急務とされている。また、胆道癌は、アジア地区に多いが、近年のインドおよび中国の人口増加に伴い、患者数増加が予想されておりグローバルな新患となりつつある。一方 CRH は視床下部より分泌され、Hypothalamic-Pituitary-Adrenal axis (HPA 軸) に作用しストレス防御に不可欠な糖質コルチコイドの合成・分泌の制御を行っている。CRH とその受容体は膵臓組織にも存在しており、その疾患予後に HPA 軸を介した内分泌系が影響する可能性も示唆される。膵臓癌における CRH 系ホルモンおよびそのレセプターの発現と癌の進行との関連を明らかにすることは、癌とストレスの関連を説明するうえで重要である。</p> <p>そこで今回我々は、膵臓・胆道癌細胞における Corticotropin-Releasing Hormone (以下 CRH) 関連ホルモンとそのレセプターの発現ががんの進行や予後に影響するという仮説を検証する。</p>
方法	膵臓・胆道組織の癌部・非癌部の病理組織標本を用いて、CRH 系ホルモン、CRH 系ホルモン受容体、CRH 系の作用による変化の可能性が考えられる内分泌系・免疫系物質等を免疫染色し、組織内における発現部位、発現量を評価する。結果をカテゴリー分類しがんの進行ステージなど種々の臨床病理的因子と比較する。
問い合わせ・苦情等の窓口	片寄 友（かたよせ ゆう） 〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学大学院医学系研究科 統合がん治療外科学講座 東北大学病院 肝胆膵外科